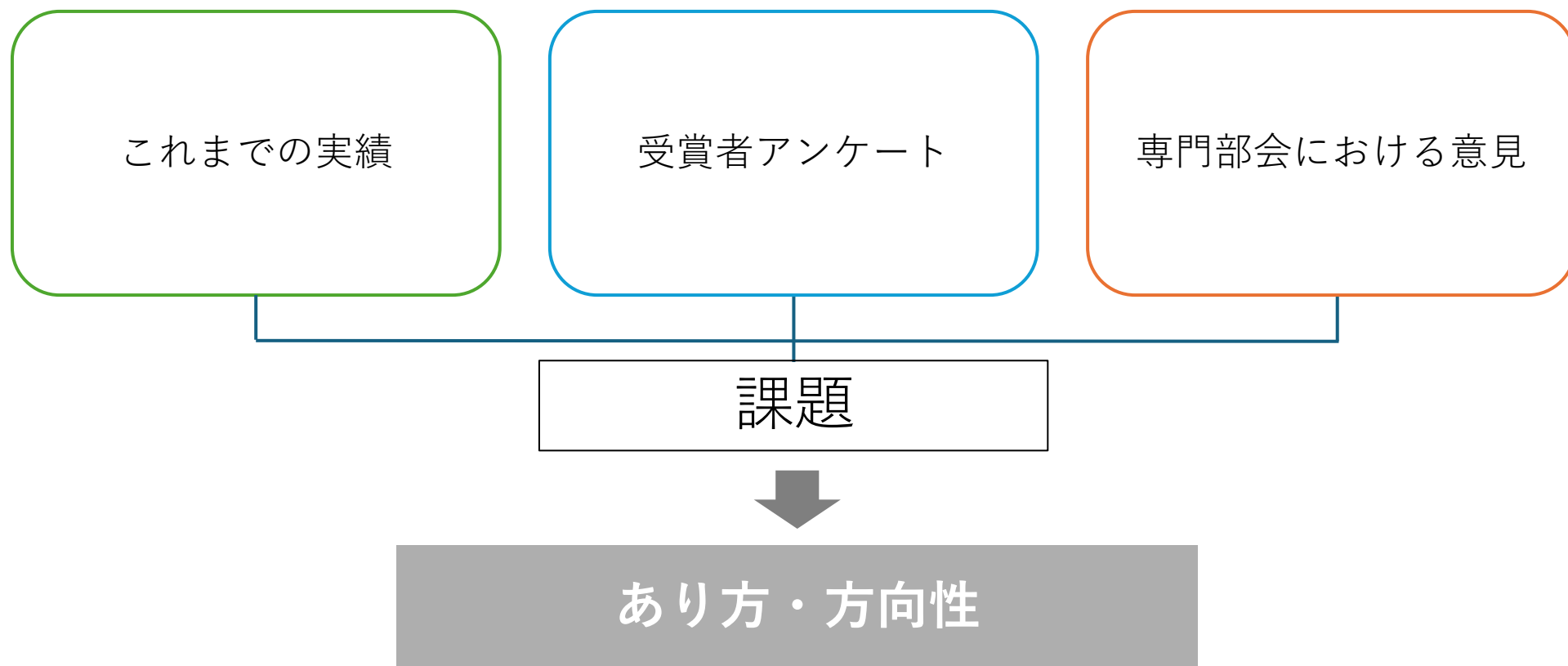


○本資料の構成について

本資料の構成として、**これまでの実績**、**受賞者アンケート**、**専門部会の意見**の3つを踏まえ抽出した課題を基に、**大田区景観まちづくり賞の今後のあり方や方向性を示す。**



大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

これまでの実績（H27～）

●応募・表彰実績

- ・これまで良好な景観形成に資する建物や活動等**計32件を表彰**。
- ・**応募件数**は合計250件以上に上るが、第4回にかけて**減少傾向にある**。
- ・多様な施設・活動等に対する応募があったが、特に「**建築物**」や「**生物や自然保護等の環境に係る活動**」の**応募が多い傾向**にある。

	応募期間	街並み景観部門		景観づくり活動部門		みどりづくり部門	
		応募	表彰	応募	表彰	抽出	表彰
第1回	H27 7/13～10/30 (110日間)	72	5	18	2	—	—
第2回	H29 5/15～7/31 (78日間)	51	6	9	2	—	—
第3回	R01 5/15～8/30 (108日間)	45	6	6	2	—	—
第4回	R05 11/27～R06 1/26 (61日間)	32	5	22	3	20	1



【第1回】ヤマトグループ羽田クロノゲート



【第2回】東京都京浜島工業団地
協同組合連合会による環境美化活動等



【第3回】田園調布駅舎（復元）・
東急スクエアガーデンサイト



【第4回】築145年の南馬込古民家改修

●記念品・表彰後の取組

- ・受賞者へ**表彰状（第1～4回）**や**記念品（第4回）**を授与
- ・**表彰対象紹介HP**及び**パンフレットの作成**、**区報による周知**等を実施



記念品（第4回）と表彰状（第1～4回）を授与

【第4回】区報一面で受賞対象を紹介

●区民等からの反響

表彰実施後、区民等から問い合わせ等、**以下のような反響があった**。

- ・第4回の結果を公表後、次回開催等についての**問い合わせがあった**
- ・第4回の結果公表**HPに全体の上位5パーセント程度の閲覧件数があった**
- ・第1回～第3回の各HP閲覧件数は、現在では1か月数十件程度のみ

⇒第1回～第4回の表彰対象について、より多くの人に、より継続的に知ってもらうためには、さらなる周知が求められる。

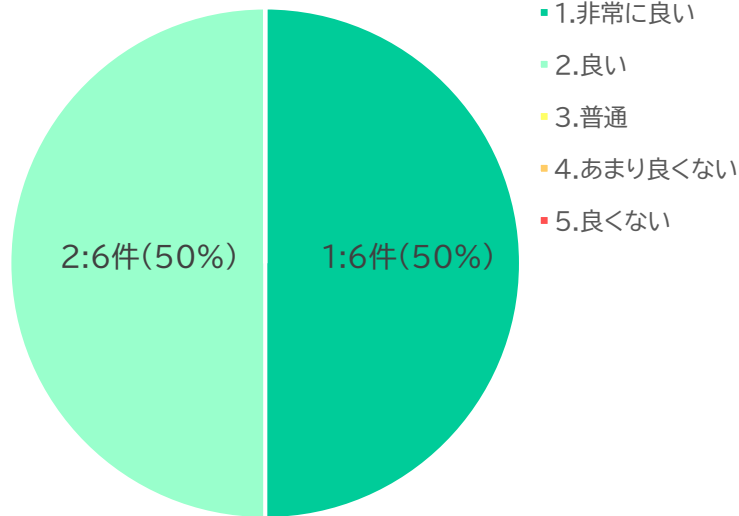
大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

受賞者アンケート（参考）

過去4回の受賞者に対して、受賞後の反響や維持管理状況についてアンケートを実施した（令和8年3月～4月）。

回答数：12件（街並み景観部門6件、景観づくり活動部門6件）
受賞のメリットや課題等を把握し今後の取組に活かすことが目的。

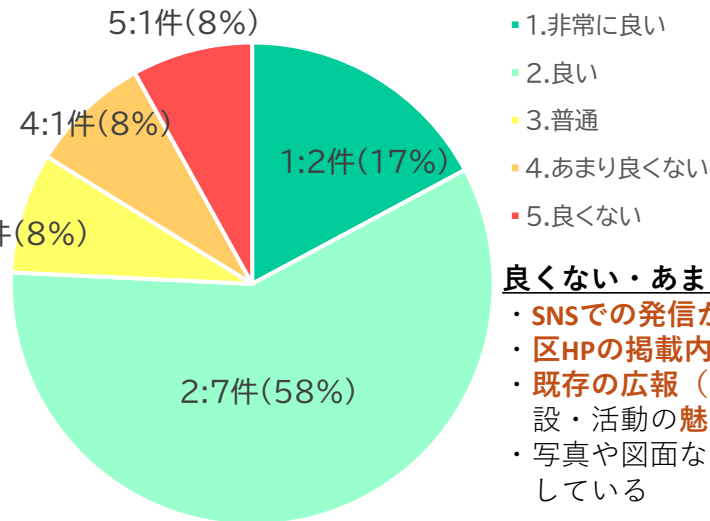
1. 「受賞して良かったか」について評価してください。



受賞して良かった理由

- ・受賞によって**関係者のモチベーション向上**につながった
- ・**お客様や地域の人へのアピール**となり、**認知度の向上**につながった
- ・**建物が今でも残っている**
- ・単純に、**受賞できたことが嬉しかった**
- ・他の受賞者との**交流のきっかけ**となった
- ・区民にめずらしい**風景を紹介することができた**
- ・改めて、施設の**価値・役割を意識するきっかけ**となった

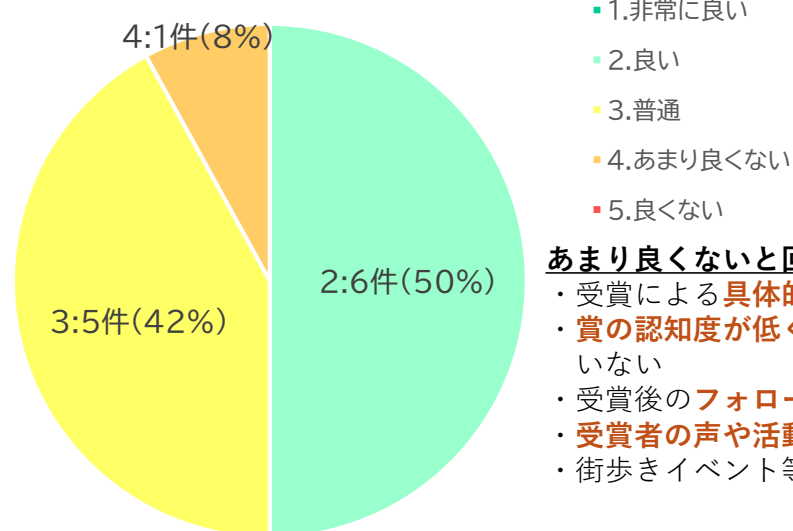
2. 「受賞後の広報活動（区HPや区報）」について評価してください。



良くない・あまり良くないと回答した理由

- ・**SNSでの発信が不足**している
- ・**区HPの掲載内容が少ない・わかりにくい**
- ・**既存の広報（区HPや区報）では受賞施設・活動の魅力が十分に伝わらない**
- ・写真や図面などの**ビジュアル情報が不足**している

3. 「賞の持つ影響力」について評価してください。



あまり良くないと回答した理由

- ・受賞による**具体的なメリットが少ない**
- ・**賞の認知度が低く**、一般区民に知られていない
- ・受賞後の**フォローアップや支援がない**
- ・**受賞者の声や活動が発信されていない**
- ・街歩きイベント等での**活用が少ない**

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

受賞者アンケート（参考）

アンケート結果全体を踏まえて・・・

●ポジティブな側面

- ・全員が受賞して「非常に良かった・良かった」と回答
- ・様々な受賞後の反響があり、特にモチベーションや意識の向上につながっている
- ・受賞を機に様々な事項に取り組んでいる

▶ 継続的に賞を開催し、良好な景観に資する施設や活動を表彰する

●ネガティブな側面

- ・応募のきっかけにSNSによって知ったと回答した受賞者がいない
- ・受賞後の広報活動について、SNS等でのより魅力的でわかりやすい発信を求める意見があった

▶ SNSやHPによるさらなる周知・活用がもとめられる

- ・受賞による反響が特になかったと回答した受賞者もいた
- ・今後の維持管理や担い手不足について不安を抱えてる受賞者もいた

▶ 既存の受賞対象の周知・活用が必要となる
さらなるスパイラルアップのために次回開催についての検討も重要となる

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

専門部会等における意見

◇景観まちづくり賞全体に係る意見

- ・今後の取組を行ううえでの目的や対象の明確化が必要である。

◇新たな取組に関する意見

- ・まち歩きマップやツアーの実施等、既存の受賞対象の周知・活用が求められている（地域のランドマークを紹介する企画を検討してほしい）
- ・他部局の事業との連携が可能か確認してほしい
- ・他自治体の取組を参考にした新たな取組を検討してほしい
- ・受賞者へ個別ヒアリングを実施し、HP等で公表するとよい

等

◇景観まちづくり賞の改善に向けた意見

- ・他自治体の取組を参考にした景観まちづくり賞のさらなる展開を検討してほしい（例：区民投票等）
- ・Instagramの活用等、SNSでの周知方法の改善が必要
- ・子どもに対する景観意識の啓発を考えてほしい
- ・みどりづくり部門の選考方法等を再検討する必要がある
- ・公共施設・文化財における受賞者の取り扱いの検討が必要
- ・複数部門での受賞や応募部門以外における受賞についての検討が必要
- ・落選対象へのフォローアップが求められる

等

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

主な課題と今後の方向性

これまでの実績、受賞者アンケート、専門部会の意見を踏まえ、以下のとおり課題を抽出した。

専門部会：今後の取組を行ううえでの目的や対象の明確化が必要である

課題1 取組の目的や対象等の明確化

- ・ 今後の取組を行ううえでの目的や、賞の効果、誰に向けた取組なのかを明確化し、まとめる必要がある。

実績：現在の第1～3回HPの閲覧件数が少ない

アンケート：受賞後の広報活動の不足しているとの回答があった

アンケート：今後の維持管理や担い手について不安を抱えてる

専門部会：まち歩きマップやツアーの実施等、他部局と連携し

つつ、既存の受賞対象の周知・活用が求められている 等

課題2 既存の受賞対象の周知・活用が必要

- ・ 専門部会やアンケートで、これまでの受賞対象へのさらなる取組が求められていることが分かったため、賞の開催だけでなく、既存の受賞対象に再度スポットを当てる取組が必要だと考えられる。

実績：応募件数の減少

アンケート：受賞による反響が特になかったと回答した受賞者もいた

アンケート：応募のきっかけにSNSと回答した受賞者がいない

専門部会：区民投票の取入れ、選考方法の見直しが必要

等

課題3 次回開催方法の再検討が必要

- ・ 景観まちづくり賞の審査方法や評価基準等、周知方法についての課題が挙げられており、今後の目的を踏まえながら、より効果的な実施方法を検討・検証する必要がある。

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

課題1 取組の目的や対象等の明確化

景観まちづくり賞の目的（賞自体の目的）

大田区景観まちづくり賞として表彰を行うことにより、区民等及び事業者の景観に対する意識の向上を図るとともに、良好な景観の形成の一層の推進に資する。また今後は大田区らしい景観の価値の共有を目指していく。

賞の効果

○シビックプライドの醸成・定住促進

賞を通して大田区の良好な景観を知ってもらい、シビックプライド（地域への誇りと愛着）を醸成することで、大田区への定住促進につなげる。
⇒「住み続けたいまちNo.1」へつなげる

○良好な景観を次世代に残していく

地域で親しまれる施設や歴史・文化的資源、景観形成に貢献する活動等、良好な景観形成に貢献するものを次世代に残していくきっかけとする。

取組

※詳細は次ページより記載

- ・積極的な周知・活用
- ・区HPや区公式X、他部局と連携した取組等
- ・区民投票の取入れ
- ・周知・活用及び区民投票を実施する。
- ・部門の再編
- ・大田区の幅広い景観の募集・表彰を行う。
- ・こどもへの教育（おおたの未来づくり）

対象者（誰に向けた取組か）

○良好な景観形成に取り組む区民や事業者、活動団体等

優れた景観を生み出す、あるいは維持する当事者のさらなる意欲向上を目指し、表彰や周知・活用を行う。

○幅広い世代の区民＋在勤・在学する人等

大田区民や区に在勤・在学する人等、区に関わる幅広い世代の人々をターゲットとし、周知を行うことで、区の良好な景観を知ってもらい、地域への愛着を醸成する。特に若い世代の愛着を醸成することで、将来的な大田区への定住促進や担い手の創出につなげる。
さらに区外の人へも周知を行い、大田区への来訪につなげる

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

課題2 既存の受賞対象の周知・活用が必要

○課題解決に向けた3つの取組案

既存の受賞対象の周知・啓発を行うことで、区民が「景観」に触れる機会を創出し、興味・関心の促進を図るため、以下の取組を行う。

①パネル展の実施による景観まちづくり賞の周知

パネル展の実施

- ・景観まちづくり賞の過去のパンフレットや写真のパネル展を実施する。
- ・景観まちづくり賞及び大田区景観計画の認知度やパネル展の効果等を確認するためのアンケートを実施する。

◆展示場所（予定）

- ・本庁舎1階北ロビー、区役所以外の施設（候補：グランデュオ蒲田等）



H27年度に実施した景観パネル展（大田区本庁舎3階）



H27年度景観パネル展におけるパンフレット・写真

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

課題2 既存の受賞対象の周知・活用が必要

○課題解決に向けた3つの取組案

②他事業と連携した 既存の受賞対象の周知

区HPやユニークおおた等でまち歩きルートを紹介「（仮称）大田区景観まち歩き特集」

「ユニークおおた（Unique Ota）」は、広聴広報課が所管する、Webサイト・SNS・動画等を通じて他にはない大田区独自の多彩な魅力を発信・共有する取組。

既存の受賞対象をつなぎ、まち歩きルートを作成し、「ユニークおおた（Unique Ota）」や区HPにて紹介し、人々のまち歩きを促す。

▶ 反響を確認しながら、ツアーの開催等も見据える

関連事業・会議等への働きかけ

次回開催時の応募件数増加に向けて、大田区景観まちづくり賞について、関連事業や会議等へ働きかけを行うことで、景観まちづくりに係る活動者等への情報発信を行う。



【まち歩き特集の例】



【特集】渋沢栄一が描いた理想のまち 田園調布を歩く



大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

課題2 既存の受賞対象の周知・活用が必要

○課題解決に向けた3つの取組案

③大田区HPや公式X等による既存の受賞対象の周知

SNSによる周知

パネル展実施時や次回開催に合わせ、大田区公式X・LINE等にて既存の受賞対象の紹介等を行う。

大田区公式X

これまでの受賞施設等を1日1か所ずつ、写真とともに紹介する等により、区民へ賞を知ってもらうきっかけとなる。



【フォロワー数】
約5.5万人
(令和8年5月時点)

【区公式Xでの周知の例】



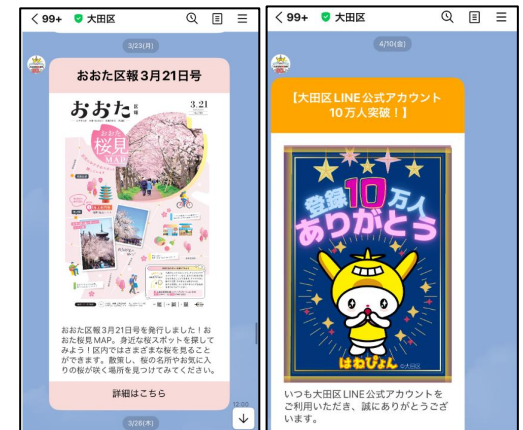
大田区公式LINE

大田区公式LINEにて、制作したチラシ等を掲載し、多くの区民等へ周知を行う。



【友だち数】
約11万人
(令和8年5月時点)

【区公式LINEでの周知の例】



既存の受賞対象を集約したHPの作成

現状、第4回まで各回ごとにHPが分かれているため、これまでの授賞対象を地図等にまとめるとともに、受賞一覧を示すことで、まだ受賞していない施設を把握できるようなHPを作成する。

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

【区公式Xでの周知の例】



【区公式LINEでの周知の例】



大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

課題2 既存の受賞対象の周知・活用が必要

○課題解決に向けた3つの取組案

③大田区HPや公式X等による既存の受賞対象の周知

その他情報媒体による周知

年齢層にに応じて、SNSによる周知だけでなく、デジタルサイネージ等による周知も検討していく。

●デジタルサイネージ

デジタルサイネージ等、効果的な手法・タイミングを捉え、積極的に発信をしていく。



●紙媒体

(例) 各受賞施設での配布物・掲示物

各受賞施設にて受賞を広く周知できるよう、これまでの賞をまとめた資料もしくは、受賞施設1件ずつにフォーカスした資料を検討する。

(例) チラシ（他の情報媒体への誘導）

P10のHPや表彰対象紹介パンフレット等の情報媒体へ誘導するチラシ等を作成し、パネル展、これまでの受賞施設等での配布やSNSでの周知を検討。

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

課題3 次回開催方法の再検討が必要

○課題解決に向けた2つ取組案

①部門の再検討

良好な景観を次世代に残していくことを目指し、部門について再検討を行う。

部門構成について

部門について、**既存部門の見直し**や**新たな部門の検討**を行う。

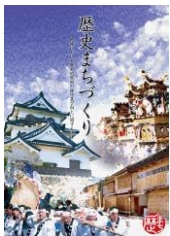
●新たな部門の例

歴史的風致維持向上計画
の策定を踏まえた部門

⇒新たな歴史的資源の発掘

近代的な戦後昭和の
オフィスビルや商店街
に関する部門

⇒失われつつゆく施設等を
残すきっかけの創出



国土交通省「歴史まちづくりパンフレット」

洗足池の「都市景観大賞
特別賞」受賞を踏まえた
部門

⇒次の応募対象の発掘

こどもに関する部門

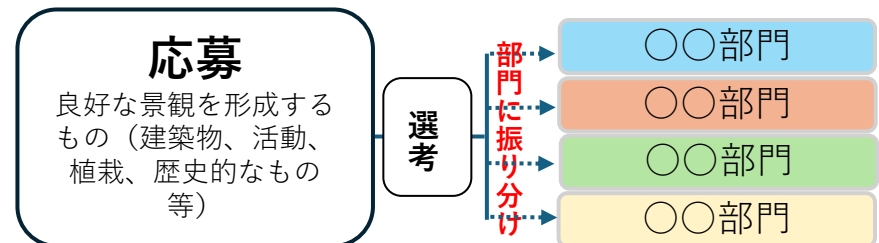
⇒担い手の育成



洗足池公園

部門の振り分けについて

これまでは、部門ごとに応募を実施していたが、**募集時には部門を設けず、その後の審査において各部門に振り分けを行う。**



メリット

・応募者の負担軽減

部門の細分化により応募者の混乱につながることを防ぐ。

・複数部門での審査が可能

街並みに景観部門とみどりづくり部門、どちらでも評価できるもの等を両部門で審査可能。

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

課題3 次回開催方法の再検討が必要

○課題解決に向けた2つの取組案

②審査方法や周知方法等の再検討

シビックプライドの醸成・定住促進を目指し、審査方法や周知方法について検討を行っていく。

区民投票について

・ 区民に取組自体を知ってもらうことに価値があるため、誰でも参加しやすい形での区民投票の実施を検討する。

【参考①：宇都宮市まちなみ景観賞】

「Myみや景観賞」として、市民等による一般投票において得票数が多かったものを表彰する。

□投票方法

一次選考を通過した10件程度から下記投票方法で最も投票が多かったもの1件程度を選ぶ。

①商業施設に候補を張り出し、投票してもらう。

②小学校に通知し、こどもたちに投票してもらう

③インターネット（HP）やSNS（Instagram・フェイスブックのいいね）で投票してもらう

その他

審査方法について

- ・ こどもの参加を促す新たな部門や審査方法について
- ・ 現地視察における応募者や所有者の立ち会いの是非について

周知方法について

- ・ SNSの活用によりさらに広く周知する手段の検討

その他

- ・ 公共施設や文化財における受賞者等の取り扱いの検討
- ・ 落選した施設・活動へのフィードバックについて

 **他自治体の手法を参考とし、詳細は方向性決定後に検討していく**

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

その他取組：こどもに向けた景観教育

こどもに向けた景観教育

こどもへの景観に興味・関心を持ってもらうことを目的として、大田区の独自教科「おおたの未来づくり」に景観の要素を取り入れてもらうよう、校長会等を通じて積極的な働きかけを行っていく。

説明資料

「おおたの未来づくり」を活用した景観まちづくり学習について

「景観」「景観まちづくり」とは？



大田区における「景観まちづくり」

区では、平成25年4月に大田区景観条例、同年10月に大田区景観計画を定め、良好な景観形成の実現に向けた取組を進めています。



区の景観づくりへの評価としては、国交省後援の表彰制度である「令和7年度都市景観大賞」の都市空間部門において、**洗足池周辺地区の景観保全の取組が特別賞を受賞し**、全国を代表する景観資産として認められました。

また、令和7年度中には、区内の貴重な歴史や文化を後世に残し、魅力的なまちづくりに寄与することを目的として、**都内初となる「大田区歴史的風致維持向上計画」の策定を予定しています。**

特別賞の受賞や、景観と関連性の深い歴史まちづくり計画の策定を契機として、**子どもたちが地域に誇りと愛着を持つことのできる美しいまちをつくり・育て・次世代へと伝えていくきっかけづくりとなる【景観まちづくり学習】**を推進していきます。



池上本門寺五重塔



洗足池

景観まちづくり学習について（国交省HP「景観まちづくり教育」と併せてご確認ください）

◆景観まちづくり学習の効果

- 身近なまちを知るために行う「まち探検」で、**まちを知るきっかけ**を提供する。
- まちの魅力発見により、**シビックプライド（＝地域への誇りと愛着）を醸成**する。
- 大田区への定住**や、将来的な大田区への帰郷に繋げる。

◆費用の助成制度について（詳細は都市文化振興財団HP参照）

国交省の【景観まちづくり学習モデルプログラム（題材）】に沿った学習を実施することで、（一財）都市文化振興財団による景観まちづくり学習助成事業を活用することが可能です。

◇助成金額 1校につき10万円

◇募集 年2回（提出書類あり）

※区内：入新井第一小、大森第六中で活用実績あり。



景観まちづくり学習に関する手引きや事例集などは、国交省HPにて公開されています

大田区景観まちづくり賞の今後のあり方・方向性について

○スケジュール案について

現在、応募件数の減少や開催の効果、周知・活用等に課題がある。

既存の受賞対象の周知・活用の取組や、次回開催の目的や部門等の見直し等を段階的に行い、万全を期した状態での、より効果的な次回開催を目指す。

年度	R8	R9	R10	R11	R12～
		景観計画修正・追加（予定時期）			
こどもへの景観教育					第5回景観まちづくり賞の開催
まち歩きルート作成・紹介					
既存の受賞対象を紹介する取組 (パネル展・HP作成・SNSでの周知等)					
部門の再検討					
審査方法や評価基準等の検証					